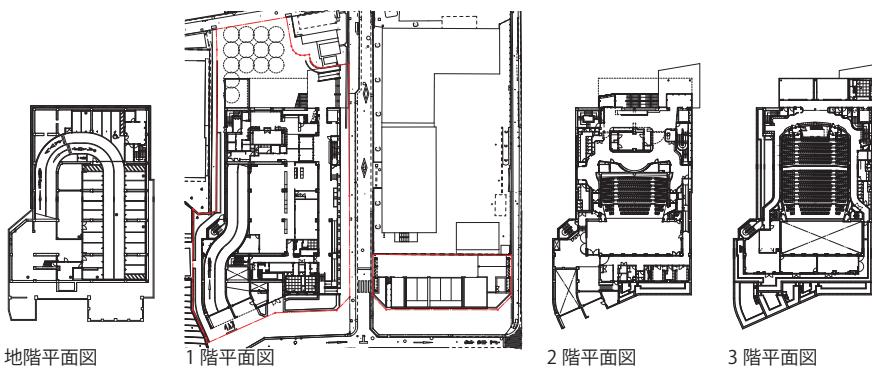


港南公会堂及び港南土木事務所

Konan Public Hall /Konan Public Works Office

2021



主な用途：公会堂、土木事務所
敷地面積：3007.95m²
建築面積：1,920.69m²
延床面積：5,940.57m²

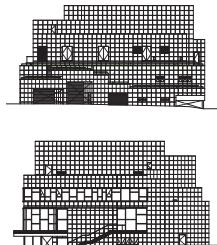
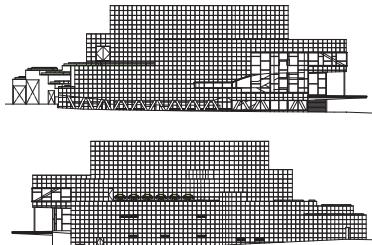
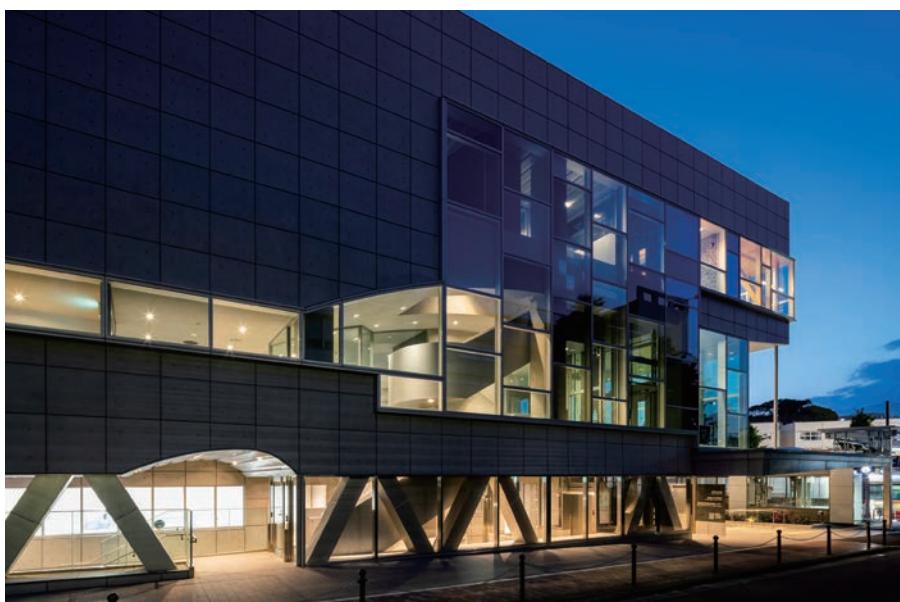
Main use : Public Hall, Public Works Office
Site area : 3007.95m²
Building area : 1,920.69m²
Total floor area : 5,940.57m²



厳しい制約下で生み出した市民のための公会堂

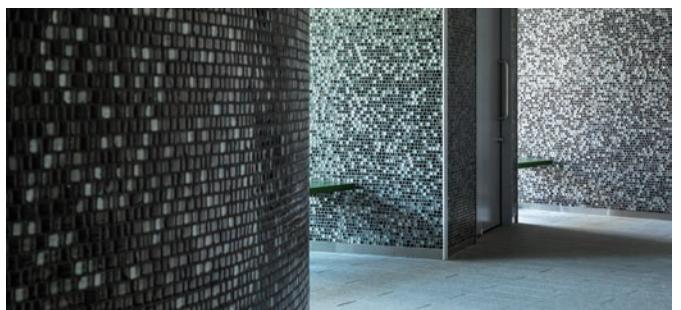
公会堂、土木事務所、区民活動支援センターからなる複合施設である。

既存建物の地下躯体を山留めとして再利用し、その内側におさまる平面を計画とする必要があった。断面的には、道路斜線と地区計画規制をクリアし、隣接する住宅地への影響を最小限にするため、段々状にセットバックする形態とした。このように平面、断面ともに非常に厳しい形態制限のなかで、コンパクトに各施設をまとめる必要があった。さらに隣接する地下鉄駅舎への影響を最小限とするため、地下躯体は鎌倉街道から大きく離し、かわりに上部躯体をSRC造として約8mオーバーハングさせた。これにより必要諸室の面積を確保すると同時に、駅前広場に大きな軒下空間が生まれた。地上には24時間自由に通行できる遊歩道をもうけ、駅から区役所を結ぶ歩行者空間を生み出した。また鎌倉街道に面して約500mの駅前広場をつくることで、開かれれた市民のための憩いの場が生まれた。



外装計画

外壁はすべてRC打放し、水平・垂直共900mmピッチで目地を入れている。通常よりも細かく目地を入れ、フライタワーなどの大きなRC壁面に対するクラックによる漏水リスクを最小限にしている。また劇場は階高が高く段床もあるため、打継目地を水平に統一することはほぼ不可能であるが、細かく目地を入れておけばそのどこかで打継を行うことができるので、当初の外観イメージを守った施工が可能となる。アルミサッシは窓ごとにLow-Eガラスの色を変え、ステンドグラスのように変化に富んだ外観を生み出している。

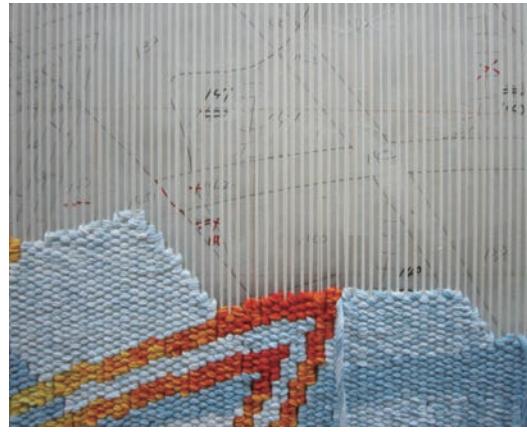


内装計画

公会堂ホワイエについては、外観と同じく RC 打放し仕上げを基調としている。最も特徴的なのは 2 階のホワイエで、オーバーハングした軒裏がそのまま室内に入りこみ、RC 打放し仕上げの天井となっている。ホワイエの壁仕上にはガラスタイルを併用している。各室内の機能を満たしつつ、ホワイエの広さも確保できる平面を模索した結果、波打つような形状となったガラスタイルが自然光を反射し、光を室内深くまで導いている。



劇場内部は敷地条件等からシーボックスに近い矩形平面となった。模型や3Dでの検討を繰り返し、波打つような曲面天井は音響シミュレーションにより気積・形状を決定した。



緞帳の製作

港南区の花であるヒマワリをテーマとし、緑や空、ヒマワリの種に見られる幾何学模様などをモチーフに私たちでデザインを行い、原画を作成した。制作にあたっては京都西陣織の工場で、職人が原寸大の型紙を製作後、この緞帳のために手作業で染糸、縫製をすべて手作業で行った。



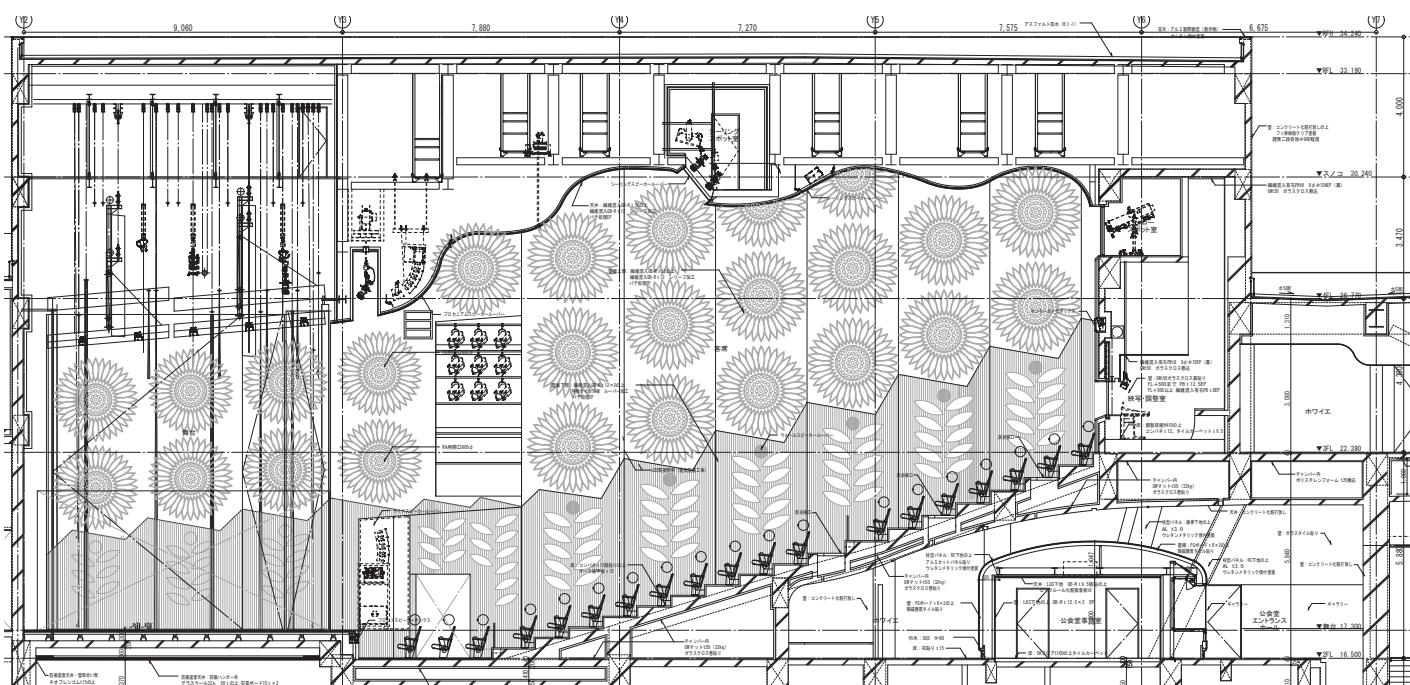
椅子の製作

客席椅子もヒマワリをモチーフとして特注で製作した。背もたれの凸凹は特殊なエンボス加工で、汗ムレも防止する役割がある。高齢化を見据えて客席にも手摺を設置してほしいという要望が出たため、樹脂製の握り棒を今回のために新たにデザインした。体重を乗せても手が痛くならず、また前後どちらからも握りやすい形状をモックアップで何度も検討した結果、自動車のシフトレバーのような形状の手摺となった。



レリーフの製作

客席の壁と天井の仕上げには、特殊ケイカル板にルーター加工を施して区の花であるヒマワリを刻印した。これは装飾的役割だけでなく反射音を拡散させる機能を持っており、結果的に響きのやわらかい、音響的にも優れたホールとなった。



プロポーザル時点から地下鉄や周辺環境への影響に配慮

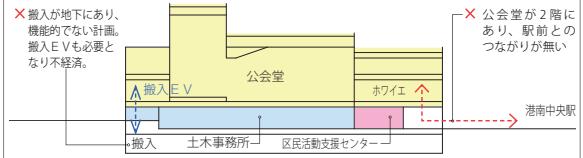
道路斜線や高さ規制をクリアし、隣接する住宅地への圧迫感と日影も最小限にするため、段々状にセットバックする形態とし屋上緑化を施した。

駅前広場、公会堂、総合庁舎を緩やかにつなぐ港南区のシンボル「緑の丘」

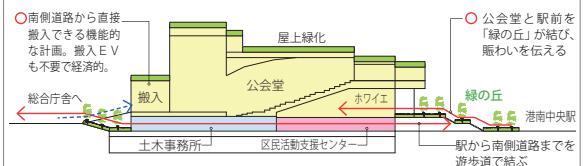


- 駅前と公会堂を「緑の丘」でつなぎ、駅前へ賑わいを伝えます。
- 港南中央駅～区民活動支援センター～土木事務所～総合庁舎を結ぶ遊歩道をつくり、周辺施設の連携を強化します。

基本計画案 駅や総合庁舎と公会堂のつながりが無く、搬入が機能的でない

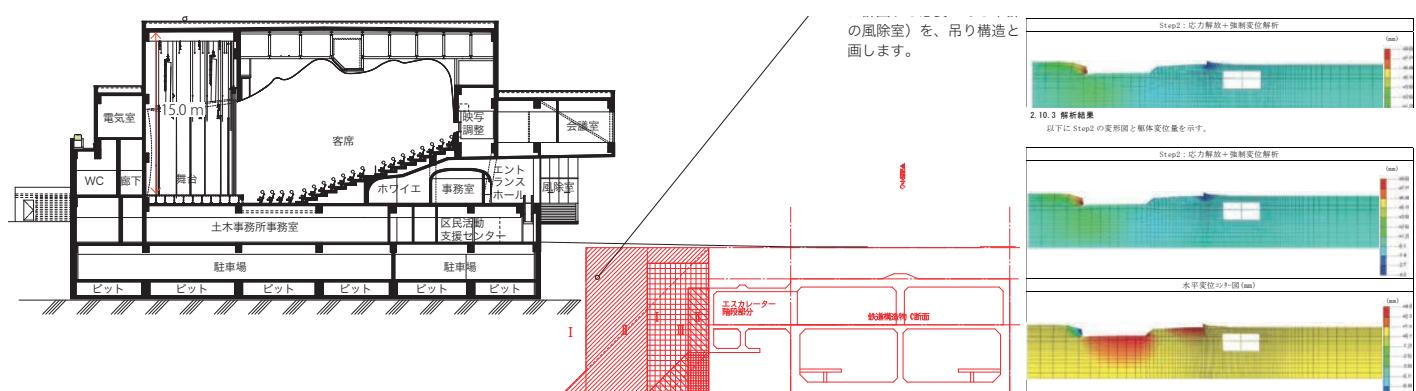


改善案 港南中央駅、公会堂、土木事務所、総合庁舎を緩やかにつなぐ「緑の丘」



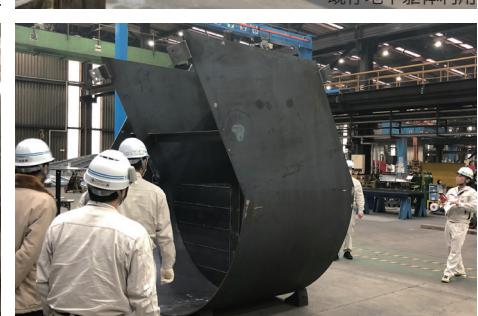
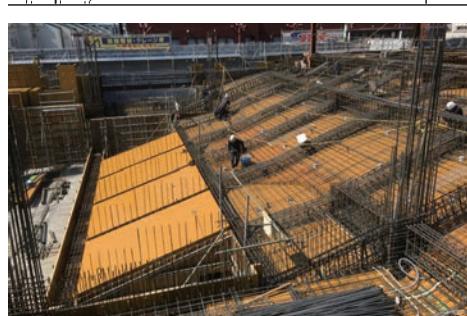
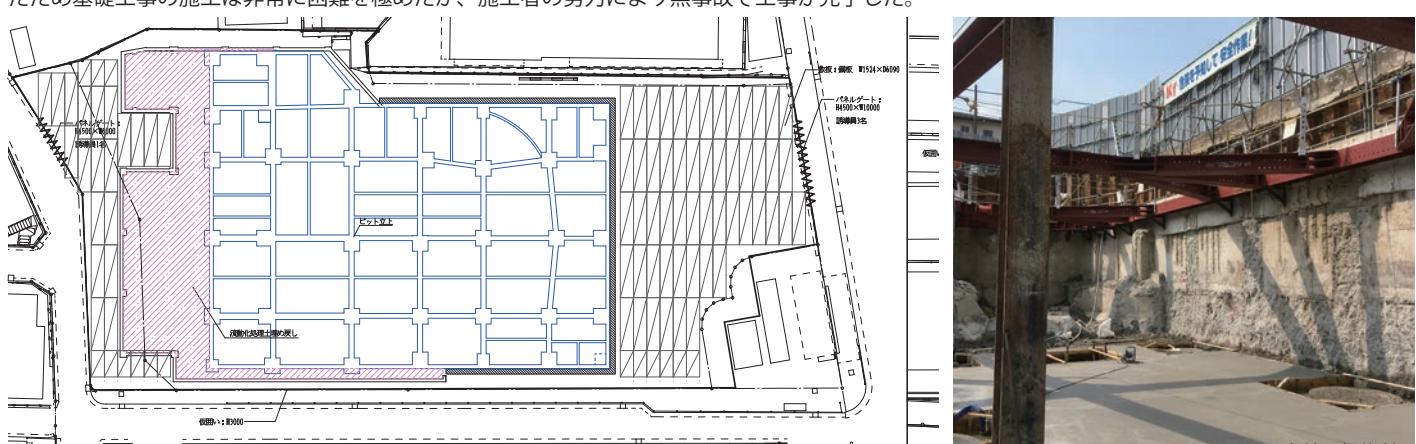
地下鉄駅舎への影響検討

基本構想では地下鉄駅の近くまで建物が伸びていたが、地下鉄に影響があった場合に工事がストップするリスクがあり、コストも工期も大幅にオーバーしてしまうため、FEM 解析による地下鉄構造物に影響のない位置まで地下躯体を離し、上部躯体だけをオーバーハングさせ必要諸室を確保した。



既存地下躯体を山留に利用

既存躯体と山留を残して解体し、既存躯体に切梁をかけながら掘削を進めた。敷地は地下水位が高く、地表 1m から被压地下水が湧き出す状況であったため基礎工事の施工は非常に困難を極めたが、施工者の努力により無事故で工事が完了した。



開館後のアクティビティ



雑誌掲載

